老後生活における最大の不安要因となり、真に介護を必要とする人のために、必要な介護サービスを総合的・一体的に提供し、社会全体で介護体制を支える仕組みとして介護保険制度が創設され、平成12年４月からスタートしました。また、平成18年４月からは、「予防重視型システム」が導入され、高齢者が要介護状態になることを防いだり、介護が必要になってもそれ以上悪化しないようにすることを目指しています。介護保険制度が開始された頃は、施設や介護職員の増加や確保に主眼がおかれていました。また、認定者の増加によって、介護保険制度の認知度を計っていました。しかし、介護事業者や介護認定者の増加が、財源圧迫の要因ともなってきました。今後、行政では量の確保から、質の確保へ主眼を持っていくようです。限られた財源で、量と質を向上させるのは大変な事だと思います。

●TPPと医療について

日本の医療と医療制度は、やはり世界的にも優れたものであり誇るべきものであります。国民皆保険制度を日本人は当たり前のように受け止めているが、世界でも希な医療に恵まれた環境に置かれていることをあらためて認識する必要があります。大部分が税金と公的保険でまかなわれている日本の医療に対して、混合診療解禁と私的保険の拡大、医療への企業参入はTPPに隠れたアメリカの財政改革のアジア戦略の一環でもあります。TPPのかっこうのターゲットとなった日本の農業と医療は、社会生活の根底にあるものであり、日本の文化や感性、長い歴史と豊かな自然に立脚しているものであります。 そして日本のTPP交渉参加がもたらす社会の変貌と医療への影響に真正面から取り組まなければならない立ち位置にあるとも思われます。今後の日本は、農業も医療も優れた国民性と共助の精神、技術力と組織力をもって日本独自の領域をさらに発展させ、アジアにおいて主導的立場を発揮しながらアメリカとも対等にわたりあうべきものと思っています。

●遺伝子組換え食品について

遺伝子組み換え食品の是非については、以下の３点に集約されるようです。

⑴人の体に害をもたらさないか。作物に導入されている異種の遺伝子やその生産物は安全なものといえるのでしょうか。新しい遺伝子が生まれたり、これまで働いていなかった遺伝子が働き初め、毒となったりアレルギーを引き起こすことはないのでしょうか。この問題について、厚生労働省では「実質的同等性」という概念を打ち出しています。

⑵生態系に害はないのか　除草剤耐性を持つ作物について心配されているのは、導入遺伝子が花粉によって雑草などへ運ばれ組み込まれてしまうことです。

⑶一部企業の食料支配の可能性　化学メーカーの一部が、除草剤とその耐性作物の種をセットにして世界中に売り込んでいるものもあります。また、種を育てて実らせた２代目の種からは芽が出ないようにする遺伝子組み換え技術を検討していた企業もありました。こうしたことから、市民団体の中には企業の食料支配を心配する声も上がっています。

退会の挨拶　　折田会員

課外授業での折田会員（武生商業高校）

短い間でしたけれど、色々お世話になり有難うございました。また、大変勉強になり今後に生かしたいと思います。皆様の御多幸お祈り申し上げます。

4月誕生日お祝い …… 7名

森上節子
瀧見良之
小泉義廣
三村昌之
池端幸彦
竹内正美
宮本　俊

4月結婚記念日お祝い …… 7名

内藤義介・洋　子
河合敏一・美智子
藤井洋造・由里子
米岡房直・和　美
五十嵐義和・洋　子
玉村一男・和　枝
笠原　章・仁　美

4月連続出席お祝い …… 1名

三田村久治

ニコニコ箱 …… 59,847円

○佐々木会長	○三田村久治	○渡辺佳男
○内藤義介	○河合敏一	○山田洋三
○米岡房直	○杉原春樹	○玉村一男
○笠原　章	○藤井洋造	○京藤敏実
○瀧見良之	○小泉義廣	○三村昌之
○宮本　俊	○森上節子	○宮前貴司
○竹内正美	○三嶋悦子	○折田耕三

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2650　　2013.4.9　No. 2276

Peace Through Service
Sakuji Tanaka
Rotary International President 2012-13

2012-2013 RI テーマ
奉仕を通じて平和を

TAKEFU WEEKLY

Rotary Club of Takefu

Bridge the Gaps

創　立／1954年（昭和29年）6月30日
事務局／〒915-8522 越前市塚町101 武生商工会館内
TEL.0778-23-5210・FAX.0778-22-2333 E-mail:takefurc@es.ttn.ne.jp
例会日／毎週火曜日　　例会場／武生商工会館
会　長／佐々木忠彦　　幹　事／河嶋　一　　会報委員長／丹羽新吾

2012-2013 第2650地区テーマ
隔たりをなくそう

第2861回 例会記録　平成25年4月2日(火)

会員総数59名（内出席免除会員６名）　本日出席会員40名
メークアップ（前々回）　9名
出席率（前々回補正）80.36％
「君が代」斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」

会長挨拶　　佐々木会長

４月５日は「清明」です。清浄明潔の略です。晴れ渡った空にはまさに清浄明潔という言葉がふさわしいですね。地上に目を移せば、百花繚乱咲き競う季節です。

４月に入り私の年度も後1/4、クオーターを残すのみとなりました。思い起こせば前年度の今頃は緊張のしっぱなしの例会参加でした。パスト会長の皆さん全員が同じ経験を持ったことでしょうが、初めてということはいくつの年になっても慣れないものですね。

今日の理事会にもお計りさせて頂きますが、次年度の当クラブ60周年記念事業をネパールに対する援助を考えていらっしゃる様ですので、具体案が出てきた折には会員の皆様の御協力をよろしくお願いしたいと思います。

ある朝刊のコラムを紹介します。

「はすかいに座る」とか「棒をはすかいに組む」と言っても、若い人は何のことかと首をかしげます。広辞苑に「斜交い」と書いてあるのを見せれば、やっと「斜め」の意味だと合点します。

建築用語の「はすかいを入れる」を説明するには、そこまで手順を踏む必要があります。四角形の建物を補強するため、対角線上に入れるのが「はすかい」なのです。

柱と梁や土台の間に斜めに組めば、骨組みの変形を防ぎ風や地震にも強くなります。「筋交い」とも同意語ですが、その重要性は建築に限らず、教育や組織でも同じです。

集団行動になじめない子どもは、得てして「斜めの人間関係」が希薄だと言います。両親や先生との縦のつながり、友達との横のつながりはあっても、それだけでは社会性は育ちません。

最近では近所の世話焼きおばさん、口やかましい地域のおじいさんなどをほとんど知りません。親自身もそんな人を煙たがる。人間の柱や土台を補強する「はすかい」が築かれていません。

組織だって同じ事。政府与党として一見上り調子に見える自民党。アベノミクスと言っても実際の政策行動にはひとつも移っていません。ただ円安には傾いていますが、今後の動きが問題でしょう。野党になった前回の選挙からは得たものは多いと言っていますが、いかがでしょうか。

最後の頼みの綱として、又再登場した安倍政権。再建の「はすかい」となるのは、さしずめ石破幹事長と高村副総裁かどうか。党内外の協調態勢を築き上げ、又政権基盤を強化出来るのか、お手並み拝見ではあります。

今日の一言：「お金は必要だが、重要ではない。」
インディアンの諺

プログラム

健康管理について　　笠原　章会員

●介護保険制度の問題点

日本は、すでに本格的な高齢社会へと突入していますが、今後も総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は急速に増加し、超高齢社会が到来することが予測されています。こうした中、介護問題は私たちの